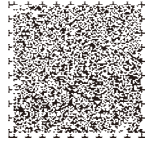




令和2年2月27日  
第119号

発行 福岡視力障害センター  
〒819-0165 福岡市西区今津 4820-1  
(電話) 092 (806) 1361  
(FAX) 092 (806) 1365

ホームページ  
<http://www.rehab.go.jp/fukuoka/>  
印刷 社会福祉法人 福岡コロニー



## 令和元年度 就労移行支援(養成施設)卒業生に贈る言葉

### 所長 徳永 光則

ご卒業おめでとうございます。

令和となり、初めて迎える新しい門出を心よりお祝い申し上げます。

これから皆さんは、それぞれの地域や職場などで、新たな生活を始められることとなりますが、その第一歩を踏み出すとき、「ステップ・バイ・ステップ」という言葉を思い出していただきたいと思っています。

「一歩、一歩、確実に」という意味ですが、自分にとって大切なこと、やるべきことを、何事にも勇気を持ち、一歩ずつ着実にチャレンジして、よりよい人生を作り上げていただきたいと思っています。

### 同窓会会長 楠原 宏和

失いかけた人生への希望と自信を再び取り戻し、新たな道へと進んで行かれる7名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。多様化する鍼灸マッサージ業界を生き抜いていくには、学識の向

### 自治会長 近藤 大樹

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。センター生活は充実した学びの多い3年間だったことと思います。

新たな人生、壁にぶつかることはあると思いま

### 石川 健(教務課3年生担当)

ご卒業おめでとうございます。

さて、センター生活はいかがだったでしょうか。ここで得た知識や経験は必ずや次のステップに生かされます。感謝の気持ちと謙虚さを忘れず、これからも日々励んで参りましょう。それが

私たちは、限られた時間を生きており、その中で、どのように過ごし、自分にできることに最善を尽くしていくことで、やがて小さな変化が生まれ、それが未来を切り開く鍵となり、道が開けていくのではないかと考えます。

「努力は実力を生み、実力は自信を生む。自信は幸運を呼び、幸運は勝利を掴む。」と信じて、今、出来ることに全力を注いでいただきたいと思っています。

最後になりますが、皆さんの今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともにたゆまぬチャレンジを通じて、更なる発展を遂げられることをご期待しております。頑張ってください。

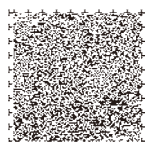
上と技術の研鑽につきます。これからの勝負ですよ。障害を理由に甘えることなく、一歩一歩着実に「前」へと進んでください。そして夢をかなえてください。今後の皆さんのご活躍を、会員一同心よりお祈り致します。

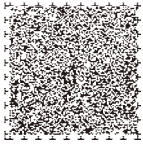
ですが、センターで学んだことを活かし、自分らしく頑張ってください。

私自身、皆さんに追いつけるように自覚をもって頑張ります。

今後のご活躍を期待しています。

ら時には来所して元気な声をお聴かせいただけると嬉しいです。今後の皆様お一人お一人のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。





### 梶原 清隆(支援課3年生担当)

皆さんがこれまで理療の学びに懸命に向き合われた姿勢には敬意の念に堪えません。特に臨床実習の実践への取り組み方からは、真剣さが伝わってき

ました。理療の仕事は、学びの継続であり大変なことも多いと思いますが、皆さんであれば、それぞれの進路でいきいきと活躍されることと思います。今後も応援しています。

## 令和元年度 就労移行支援(養成施設)卒業生からの言葉

### 衛藤 宏章さん

入学直後、「経絡と経穴は鉄道の路線と駅のようなものだから、鉄道好きは覚えるのが得意。」と言われ、駅フェチ・乗り鉄の鉄ちゃんであるボクはカミングアウトできなくなり、それは卒業まで続きました。なので、今ここで正直に白状しておきます。3年間ありがとうございました。

### 松尾 晃さん

ここに入る前は自分だけが不幸だと思っていて、普段は何でも相談できる幼馴染にも、病気のことだけは吐き出せず、人生の『壁』で立ち止まっていました。

しかし、この福岡視力センターに入り同じ境遇の仲間と出会えたことで、日常会話の中で「よっ！視覚障害者」「あんたもな(笑)」などの、視覚障害者ならではの冗談も言えるほど、今の自分を受け入れられるようになりました。

そんな一生付き合える仲間が出来たこともあり、今まで打ち明けきれなかった地元の友達にもいろいろなことを相談できるようになりました。

目が見えないから『行き止まりの壁』だと思い込んでいただけで、実は『新しい扉』だったのだと今は思えます。ここで『鍵(仲間)』も手に入れたので、これからはどんな扉も開けます♪

楽しい時間とかけがえのない仲間を、本当にありがとうございました。

### 田川 雄策さん

まったく知らなかった分野の勉強と実技、久しぶりすぎる試験などを経験し、気が付けば3年間があっという間に過ぎ去ってしまった感じです。

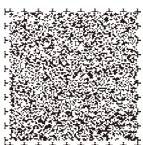
ここで学んだ知識はこれからの人生にきっと役立てていけるようにこの後も頑張っていきたいです。3年間ありがとうございました。

### I.K.さん

社会人になってからの勉強はその価値を知っているので本当に楽しい3年間でした。ついこの前入所したと思ったのにあっという間に卒業を迎えます。今、苦しんでいる方もそうでない方も終わってしまえば全てが良い思い出です。最後に支えて頂いた教職員とクラスメイトの皆様に感謝の意を表します。

### O.H.さん

福岡視力障害センターでの出会いは、私の人生転機となる「かけがえのない一期一会」になりました。規則正しい生活と栄養ある食生活の中で、障害を理解・共有しあえる皆様に出会い、ふれあい、学び、心も身体も元気になりました。思い出いっぱい、感謝でいっぱいです。ありがとうございました！

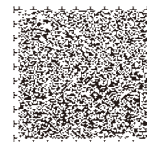


## Aさん

長いようであつという間の3年間でした。入所してから日々の訓練についていくのに精一杯で、体調を崩すことなどもありましたが、職員の皆さんやクラスメイト、そして家族の支えもあり卒業式を迎えることができました。3年間本当にありがとうございました。

## Bさん

入学当初は夢も希望もなく、不安しかありませんでしたが、3年間のセンター生活で少しずつ考え方も変化し、前向きな気持ちになることができました。卒業後は第二の人生を充実したものでできるよう頑張っていきたいです。



# 創立50周年記念式典

福岡視力障害センターは、昭和44年1月に設立され、奇しくも改元の年となった令和元年に創立50周年を迎えることとなりました。

50周年を記念し、令和元年6月7日(金)に創立50周年記念式典を実施いたしました。

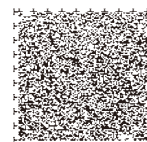
開催にあたり、まず記念講演として、弁護士の大胡田誠先生をお迎えし、「全盲弁護士のゆめのかなえかた」をテーマに、大胡田先生の体験談や、司法試験にチャレンジし続けたエピソードをご講演頂き、利用者・職員に勇気と希望を与えて頂きました。

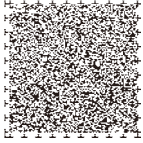
式典は、国立障害者リハビリテーションセンター総長の挨拶、厚生労働大臣、福岡県知事、福岡市長、今津福祉村村長、同窓会会長より祝辞を賜り、また、センター卒業生・修了生による同窓会より記念品が贈呈されました。そして、これまで福岡センターに貢献されてきた、福岡線の会の方に厚生労働大臣感謝状が、今津ボランティアなぎさの方に所長感謝状が授与されました。



70名近い来賓の方に出席頂き、盛大にかつ厳かに式典を実施することができました。

これまで福岡センターを卒業・修了された利用者の方をはじめ、これまでの職員の方々の努力や、地域の方々の支えもあり、50年という節目を迎えることができ、この場をお借りして改めて皆様にご感謝申し上げます。また、今後ともよろしくお願ひします。





## Eyeあいフェスタ

第9回目を迎えることとなった、Eyeあいフェスタ。今年は10月26日土曜日、九大学研都市駅から徒歩1分圏内にあるさいとぴあ西部地域交流センターの体育館で行われました。開催目的として当センターが実施する普及啓発活動及び情報発信の事業の一環として、視覚に障害のある方の仕事・生活支援やパラリンピックの種目にもなっている障害者スポーツについて、様々な体験を通して、地域の方々に理解や知識を深めて頂くことを目的に開催しました。特に子供達に障害への理解を深めてもらえるように楽しみながら学んでもらえるような企画内容にしました。



当日は300名を超える多くの方々が来場され、大盛況でした。アイマスクをして水汲みを行う。手引きの誘導の仕方を実際にアイマスクをして歩いて学ぶ。視覚障害者が使用している機器説明を受け使ってみるなど子供達は楽しみながら、時に真剣な眼差しもみられ、多くのことを知り、学んで頂けたのではないかと思います。また、親御さんには障害者スポーツにも興味を持ってもらうきっかけになり、東京パラリンピック2020の種目に関心を持って頂けたと感じています。今後もより多くの地域の方々に障害への理解や関心を持って頂くためにもこうした活動を続ける予定です。



## 創立50周年祝賀 今津人形芝居

センター創立50周年であることを、地域の方々にもっと知ってもらいたいとの思いから、今津人形保存会「恵比寿座」が立ち上がり、令和元年12月1日(日)にセンター体育館において「創立50周年祝賀今津人形芝居」が実施されました。

人形芝居は江戸時代から続く、歴史のある郷土芸術であり、芝居は、太夫といわれる語りが登場人物の台詞・情景描写を語り、それを助ける三味線弾きが、音色と情景を表現し、語りと三味線に合わせ、複数の人形を人形遣いが操り(1体の人形に人形

遣いは3人)行うという、非常に熟練と高い技術が必要とされます。

当日は、2つの演目が行われ、1つ目は「えびす舞奉納」で、酒に酔ったえびす様が大きな鯛を釣り上げるといふ、祝賀に添えるおめでたい演目でした。2つ目は「傾城阿波の鳴門～巡礼歌の段」で、両親を探しに来た娘と、深い理由により母と告げることができない母親が再会するが、娘を国(徳島)へ帰るよう諭し、結局母と名乗れず別れてしまうという、涙を誘う演目を披露して頂きました。

演目の合間には、芝居で使用するからくり人形

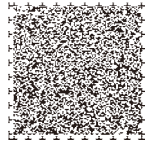




を実際に触ることもでき、操り人形の難しさを体感できました。

センター利用者、職員をはじめ、多くの地域の方々が参加され、センターの創立50周年を迎えることができた喜びを共有することができました。

今回の今津人形芝居を公演して頂きました「恵比寿座」の皆様をはじめ、関係者の方々に感謝申し上げます。



## 就労移行支援(養成施設)卒業生の近況報告

平成29年度に卒業した佐藤 直人さんに近況報告をしていただきました。



センター便りをご覧の皆様、こんにちは！平成30年に理療教育専門課程を卒業した、佐藤と申します。季節は少しずつ春へ向かい始めてきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私が卒業してから、もう2年が過ぎたのですね。在所時は自治会長を務め、行事の運営などに取り組んだり、ゴールボール部に所属して大会に出場したりと、それなりにアクティブな生徒だったと思っています。

…おかげで模擬試験の解剖学の領域にて全問不正解なんてことをやらかし、先生方にはご心配をおかけする生徒でもありましたが。

さて、私は現在、LINE Fukuoka株式会社にて、ヘルスキーパーとして働いております。

ヘルスキーパーとは、企業内で社員さんを対象に施術を行う職種のことで、私の場合はマッサージをさせていただいております。

最大で1日15人の施術を行ったり、施術以外にもメルマガの配信を行ったりしています。

先日開催しました「クリスマスキャンペーン」は大変好評をいただき、今後のさらなる利用者の増加を予感させるものとなりました。

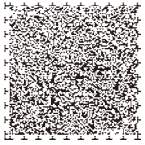
そんな私のモチベーションとなっている言葉があります。

それは、センター在所時に先生からいただいた、「人を笑顔に出来る仕事なんて、なかなかあるものじゃない」という言葉です。

私たちの得てきた知識や技術は、人を笑顔にすることが出来ます。

それと同時に、私の施術を受けるためにわざわざ時間を作って来てくれた社員さんを、笑顔にして帰さなければならぬという責任も、この言葉には含まれているように感じます。忙しい業務の合間を縫って施術を受けに来てくれる方を迎える、ヘルスキーパーという職に身を置いて、改めてこのことを強く実感しました。





この「笑顔にする責任」を果たすためにも、センターで学んだことをベースに、幅広い知識を身につける必要性を感じています。

まだまだ走り始めたばかりの理療家人生、より多くの方を笑顔に出来るよう、研鑽を続けて参ります。

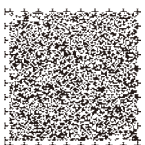
最後に、センター便りをご覧の皆様が、今後も自らの目指す道を邁進して行けることを願っています。



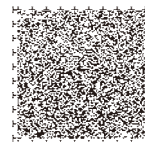
## 障がい者週間記念講演

12月4日(水)、障がい者記念講演を開催しました。当センターでは、障がい者週間に合わせ、この期間に平成15年から毎年記念講演会を開催しており、今年で17回目の開催となりました。

今年度の講師は、当センターの自立訓練を平成29年度に利用された島袋勝弥<sup>しまぶくろかつや</sup>氏にお願いしました。島袋さんは、現在山口県にある宇部工業高等専門学校 物理工学科准教授の仕事に就かれ、活躍されています。講演は、『中途視覚障害者、リハビリを受けて人生仕切り直し』という演題で行われました。研究者として活躍している中、徐々に進む視力低下。仕事を含め様々な事がうまくいなくなっていた日々。多くの葛藤を繰り返し、乗り越えての職場への復職。現在の状況も含めてユーモアを混じえお話し頂きました。利用者・職員とも、和やかな雰囲気の中とても参考になるお話を頂くことができました。



## 自立訓練(機能訓練)修了生の近況報告



障害者週間記念講演で講師をして頂いた島袋勝弥さんに近況報告をしていただきました。

利用期間：H29.5～H30.1

帰結：復職(宇部工業高等専門学校 物理工学科准教授)



2019年の師走、私は福岡視力障害センターで「中途視覚障害 -リハビリ受けて、人生仕切り直し-」という題で講演をしていた。つい2年前は、自分自身が自立訓練生で講演を聞く側だった。その時、休職中の私は不確かな将来を憂い、覇気を完全に失っていた。その私が自身のリハビリ、復職体験を熱こもった声で語っている。全くの「別人」がそこにはいた。

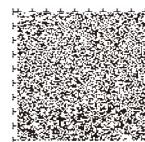
網膜色素変性症による目の悪化のため、私の人生はどん詰まり状態にあった。言うことを聞かなくなった体にムチを打ち、どうにかたどり着いた先が福岡視力障害センターだった。しかし、気持ちについてはこなかった。ただ、訓練を受け身で消化していく日々が続いた。結局、7ヶ月もかけて訓練を修了した私は、果たして、ここで何を得たのだろうかと自問自答していた。

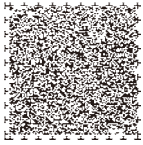
これという大きな転機はなかったが、復職してからの私は徐々に自信を取り戻していった。高専教員として授業、実験を工夫しつつ、そして周囲の支えを受けながら淡々とこなしていった。一つひとつの「まだ、できる」の積み重ねが私に少しずつ活力を与えてくれた。あれこれと難しく考える

必要は全くなかった。「できる」を繰り返し、それを素直に身体で味わうことで、私の魂は生きを吹き替えした。

確かに、自立訓練により失ったと思い込んでいた機能を取り戻すことができる。だが、自立訓練の本質は視覚障害者として生き抜くための小手先のテクニック獲得ではない。心の立て直しにこそある。白杖訓練により、より安全に歩けるようになる。音声でパソコンを操作できることを知る。ロービジョン訓練により、自分に残された視機能をうまく使いこなす術を体得する。これら一つひとつが栄養となり、枯れかけた心を滋養していく。

視覚障害者になると誰しも絶望する。立ち直るためには訓練がいる。そのためには厳しくも親身になってくれる訓練士、同じ目標に向かう仲間と出会うことだ。そしてなんとと言っても時間がある。世間の喧騒から離れた非日常の空間で、肩の力を抜いて静かに時の流れを見つめてみてはどうだろうか。私にとっては福岡視力障害センターがその場所だったのは間違いない。





# 利用者募集

## 1 当センターが提供する施設障害福祉サービス

サービス名	サービス内容	利用開始日	利用申請受付
自立訓練 (機能訓練)	歩行訓練、点字訓練、パソコン訓練、タブレット訓練、日常生活訓練（身辺処理・調理等）、スポーツ訓練、ロービジョン訓練、教養等	随時 (原則として 月曜日)	随時
就労移行支援 (養成施設)	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた学習、進路支援等	毎年度 4月上旬	年3回

※通所が困難な方に宿舎・食事・生活支援等を行う「施設入所支援」サービスも提供しています。

## 2 利用に関する問い合わせ

サービス利用や利用料等の詳細、パンフレット・紹介ビデオ(DVD)等の送付、施設利用のお申込み、見学をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

電話：092-807-2844(支援課直通)

092-806-1361(代表)

Eメール：shienka-f@mhlw.go.jp



(ホームページQRコード)

## 編集後記

就労移行支援(養成施設)2年生 山崎 惇  
 2019年度も下半期を迎えると、新入生も個性が出てきて、センター全体に新たな色が出てきました。同時に3年生は国家試験に備えて本格的な追い込み時期です。本年度も目指せ全員合格！晴れて東京オリンピックを楽しみたいと思います。

就労移行支援(養成施設)2年生 Cさん  
 令和元年度も終わりが近づいてまいりました。今年度もイベントが盛りだくさんで皆さんも忙しい年だったと思います。1年間お疲れさまでした。

